

**顕如光佐** 浄土真宗の僧。本願寺第11世。石山本願寺に拠って信長の最強の敵、のち秀吉の保護で京都本願寺の礎。

けんによこうさ

**鉄砲伝来**・1543 = 本願寺は証如時代から権勢を強め、戦国大名の注目を集めたが、その**証如の長男に生まれる**。  
・1544 = 1歳：細川晴元から婚約の申入れがあり、

後年その養女を六角義賢の猶子として内室に迎えた(如春尼)。

**ザビエル来日**1549 = 6歳：

大友布教許可1552 = **9歳**：

・1554 = 11歳： **法灯を継ぐ**。

大友府内開港1559 = 16歳： **父証如時代から望んでいた門跡に列せられ、地位が向上**。

川中島最激戦1561 = **18歳**：

**桶狭間の戦**・1560 =

諸大名接近の例としては、北条氏康が上杉景虎との対立から本願寺の援助を望み、相模国内の一向宗禁制を60年ぶりに解除、武田晴信が上杉への牽制のため加賀・越中の門徒の上杉領への侵入を顕如に依頼、六角、浅井、朝倉氏らが織田信長への対抗上領内の一向一揆と結んだこと等があげられる。諸大名の動きに対し顕如は積極的に動くことはなく、信長との間も5000貫の矢銭の納入や品物の贈答など、

**織田信長入京**1568 = 25歳：

京都宣教許可1569 = 26歳： **この頃までは織田信長との交渉があったが、**

石山合戦始・1570 = **27歳**： **\*信長が近江・越前へ進攻したところから対立が表面化し、信長からたびたび要求が出され破却が告げられる状態となり、信長と三好氏の対立を契機として交戦状態に入る。**

**室町幕府滅亡**1573 = 30歳：

**以来北陸、東海、近畿の一向一揆や毛利氏の支援をうけ、武田・上杉とも盟約を結び、石山本願寺一揆。**

**信長の越前・近江・伊勢の平定が進み、長島・越前の一向一揆が壊滅した後は、毛利や紀伊の一向一揆に支えられるが、**

安土教会許可1579 = **36歳**：

石山合戦終・1580 = 37歳： **\*朝廷の仲介により和睦が成立し、講和の条件に従い石山本願寺を退き、和歌山鷺森に本拠を移す。**

石山に残り再挙を図った長男教如と義絶したが、

**本能寺の変**・1582 = 39歳： 信長が倒れたあともまもなく和解。

賤ヶ岳の戦い・1583 = 40歳： **和泉貝塚に移ったが、豊臣秀吉によって、大坂天満に寺地が与えられ、**

豊臣秀吉関白1585 = 42歳： **再び本拠は大坂へ移った。**

刀狩海賊取締1588 = **45歳**：

**秀吉全国統一**1590 = 47歳：

土農工商公布1591 = 48歳： **\*秀吉から京都へ移転が命じられ、顕如は六条の地を選び秀吉が寺地を寄進、坊舎が建立されるなど、秀吉の保護による復興のなか、**

**文禄の役**・1592 = 49歳： **没した。**